

日本山岳会 越後支部報

第 10 号

平成26年 5月24日
発行 日本山岳会越後支部
発行者 橋本 正巳
新潟県上越市とよば9番地
TEL・FAX 025-524-7215
広報委員長 本間 一人



私の一枚

荒沢岳(1,968.7m)

越後の山旅によれば荒沢岳を大鷲が大きな翼を広げたようだとある。平野部から望むことは出来ない山だが、名のごとく荒々しい山容で近寄りがたい。それだけに岳人には魅力ある山だ。枝折峠を銀山平側にし下った地点からの写真です。

本間 一人 (新潟市)

新年度を迎えるにあたり

日本山岳会越後支部長 橋本正巳

越後支部の目標の内の一つとして掲げて参りました会員の底上げ、即ち新入会員の勧誘も会員皆様のご理解と、ご協力により順調に推移いたしており、既に二十名程の新入会員をお迎えする事が出来ました。今後のご活躍を期待いたしておるところでございます。またいろいろな同好会の発足をご提案して参りましたところ、田邊信行氏、後藤正弘氏を中心にスキー&スノートレッキング同好会が発足し、既に活動を始めて頂いているところであり、引き続きフォトリスク同好会も渡辺欣次氏、本間一人氏に発足準備のご苦勞をお掛けしているところでございます。こうして各分野の同好会が出来るとは、越後支部の積極的な活動の起爆剤になることを確信しているところであります。

今年の六月には小山事業委員長を中心に公募登山を計画して頂いておりますし、毎年開催されている越後支部の大きな行事の一つ、「高頭祭」には本部の森武昭会長並びに高原常務理事、そして昨年もご来越頂いた日本山岳協会長、神崎忠男氏以下二十名程の日山協の会員の方々も参加される予定であります。日本の山岳界を代表するお二人のご参加は、誠に光榮の至りで有り、これも偏に日本山岳会設立発起人の御一人であり、また第二代会長であった我が郷土が誇る山岳の先人、高頭仁兵衛翁の人徳と業績のなせる業と信じて止みません。支部年次晩餐会に於いてはエベレスト登頂者渡邊玉枝氏をお迎えしご講演頂く予定でございます。来年は日本山岳会が創立一〇周年を迎えます。そのコンセプトは「若手会員の育成と会員の増加並びに支部の活性化」とあります。時を同じくして当越後支部も七十周年を迎えます。七十周年を迎えるにあたり、越後支部といたしましてもプロジェクトチームを立ち上げ、本部事業に呼応しながら、また、支部独自の計画を組み進めて参りたいと思っております。今後とも会員皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。新年度の御挨拶と致します。



藤井 信先輩を偲んで

日本山岳会越後支部長 橋本 正巳



二〇一四年一月十一日、雪の降りしきる寒い一日の始まりでした。

玄関先には雪が四〇〜五〇cmほど積り車庫前の除雪も一段落、ホッとしていた矢先、藤井先生ご逝去の訃報が入りました。もはや二度と警咳に接すること叶わず、誠に痛恨の極みであります。昨年よりご体調も思わしくないとお聞きいたしており、一喜一憂していた矢先の事であり、この日を迎えることは少なからず覚悟はしていたものの突然の事であり只々驚き、ご冥福をお祈りする事しか出来ません。享年八十三歳の生涯を山に掛けた熱き思いを、今更ながら思い出しているところです。しかも昨年の七月には室賀日本山岳会名誉会員もお亡くなりになったばかりだと言うのに。巨星墜つるが如き両先輩のご逝去は大きな衝撃で言葉にならず、あらためて、一つの大きな時代が終わったなと言う思いが拭えませんが、藤井先生は真摯なお人柄に加え、チャレンジ精神とそのバイタリテイは常に私共後輩の道標で有りました。長岡工業高校在任中は山岳部の指導育成に尽力され、また長岡ハイキングクラブの牽引者としての存在は計り知れないものでした。私も高田ハイキングクラブの名前の由来も、将来長岡

ハイキングクラブのような山岳会に成りたいと言う願いを込めて命名したものです。新潟県山岳協会会長を務められた後は顧問として、また日本山岳会の永年会員として越後支部名誉会員としてのご指導は私たち後輩の力の源であり、爾来折に触れ故室賀、藤井両先輩を目標とし研鑽して参りました。藤井先生が新潟県山岳協会会長を務められておられたときは副会長のご下命を頂き、その元で多々ご指導いただきましたことは未だ忘れる事は出来ません。新潟県山岳協会の活性化について、国民体育大会への取り組み、またクライミング競技には早くから注目され、その対応の早さは正に先見の明とその造詣の深さを窺い知るものであります。その他数々の業績について語り尽くすこと叶いませんが、新潟県山岳協会会長並びに日本山岳会越後支部名誉会員として比類なきご指導のもと、一九九二年十一月十六日中国青海省登山協会との兄弟協定を締結されました。遡ること五か月前の六月には中国青海省、崑崙山脈のケイコウシャン峰（五三三四m）に新潟県山岳協会と青海省登山協会の合同登山隊で登頂。一九九三年、中国青海省共和県の青海南山（四四七二m）は第一回高校生訪中交流登山の引率で。一九九四年、中国青海省の野牛山（四八八八・三三m）は経済不況の中、生徒の参加希募者二名で実施が危ぶまれる中、藤井先生と当時の柏崎工業高校登山部顧問の小杉克彦先生の努力と御尽力で実施されたと聞いております。一九九七年、

曲阿加吉瑪峰Ⅱ峰（五八九〇m）は新潟県山岳協会五十周年の記念行事の一環として企画され、登山隊長として。二〇〇〇年、トモルテイ 托木爾堤峰（四八八八m）は藤井先生が新疆ウイグル自治区を旅行中に、哈密市郊外より北東一九〇kmに位置する托木爾堤峰を紹介され、それが起因とお聞きしております。この時の総隊長が元日本山岳協会会長の坂口三郎氏、副総隊長が故室賀輝男氏、隊長が藤井先生で有りました。二〇〇二年、ガンシカ峰（五四二五m）は新潟県山岳協会と中国青海省登山協会との兄弟友好協会締結十周年記念行事の一環として総隊長として参加されておられます。二〇〇四年、曲阿加吉瑪峰Ⅰ峰（五九三〇m）は当時資料、写真等の全くない地図の空白部であり、その為故小倉厚氏（日本山岳会No.5709）、藤井先生の両氏が偵察山行に入って居られます。中国青海省との友好交流の過程の中で青海省の青海信越山荘建設事業にも携わり、その時の発起人、勝野順先生、伊沢利幸先生、と精力的に活動されておられました。藤井先生が多く残された業績の中から青海信越山荘建設の経緯と顛末について発起人の御一人で居られる勝野順先生から頂いた全文をそのままご紹介させて頂きたいと思えます。この青海信越山荘については「長野県山岳協会創立五十周年記念誌」の七十七ページに六行を割いて掲載されております。以下、勝野先生の記述全文です。

一九九八年から信濃高等学校教職員山岳会（以下信高山岳会）が主催してきた「高校生訪中登山交流会」の第三回隊（一九九一年達理加山）第四回隊（一九九二年野牛山）を青海省登山協会のご協力で実施した中で始まりました。そして九一年、九二年の二回にわたる青海省登山協会の訪日団との協議で具体化。九三年七月、有志十五名が集まって「青海信州山荘をつくる会」を発足させ、同八月には杉山昭久以下四名で建設地を探る「青海省山岳視察団」を派遣しました。その秋にはかつて親交のあった当時新潟県山岳協会副会長の藤井信先生も賛同されて共に進めることとなり、名称を「青海信越山荘をつくる会」としたのです。翌九四年二月、藤井信、伊沢利幸、勝野順の三名が青海省西寧市に於いて青海省登山協会秘書、長延義氏との間で「青海信越山荘建設契約書」を交わしました。



藤井先生は七月二十六日からの新潟県高校生訪中隊隊長として忙しい最中の訪中で、その外交的かつ情熱的な取り組み

方には全く脱帽でした。翌一九九五年四月二十七日～五月九日には「青海信越山荘完成記念ツアー」を組んで会員三十人が参加、二十九日には山荘前で除幕式を行いました。また五月二日には青海湖西方に連なる青海南山の二峰に登ったのですが、協会員が「ここは無名峰です」と言うので、藤井さんの発案で「青海信越峰」と命名、地形図に記入すると言う話でしたが未確認です。標高も未確認ですが、三九〇〇m前後でしょう。しかし、広大な青海湖と山荘の一角を一望できる絶好の展望台で、ゆっくり登って二～三時間のハイキングコースです。その後は清蔵公路・敦煌トレッキングから湖周騎馬トレッキング等、「青海信越山荘」を利用したツアーから個人的な旅行まで数多く実施されました。藤井信先生が「青海信越山荘」に関わられた事績は、中国登山協会なканずく青海省登山協会との数多い友好事業の一端かもしれませんが、間違いなく日中友好の一時期を画したものでありました。」次はその時の信濃毎日新聞一九九四年三月五日付の記事です。

「長野・新潟の高校教師ら中国に友好の山小屋 青海省登山協会と建設契約」

中国青海省に山小屋を建設しようと訪中していた長野、新潟両県の高校教師らの「青海信越山荘をつくる会」が四日までに、同省登山協会と山小屋建設の正式契約を結んだ。建設地は西寧市の西約一五〇キロの高原と決まり、今月中に工事を始め、来春からの利用を目指す。西寧市での調印には、

県山岳協会副会長で梓川高教諭の勝野順さんら会員三人と同省副省長らが出席。日本側が建設費の一千万円を拠出、不足分を同省登山協会が補う。会員や家族、友人五人までは無料で山荘に滞在できる。完成後の不動産権、使用权は同省登山協会が所有する等を約束した。同省政府も力添えすると挨拶した。勝野さんによると、山荘の名称は「青海信越山荘」。建設予定地は穂高連峰に匹敵する標高三一九五mで、冬は全面氷結する青海湖のほとりにある。周辺では放牧や菜種栽培が盛んだ。敷地は約〇・三ヘクタール、煉瓦つくり二階建て延べ約四〇〇平方メートルの中国様式(約四十人収容)にする。山荘を拠点に、五〇〇〇m級の登山、トレッキング、パラグライダー、サイクリングやチベット自治区に通じる道路のドライブ、黄河源流域の探検などを予定している。県山協等の県高校生訪中登山交流事業に参加した勝野さんらが昨年七月つくる会を設立し、準備を進めてきた。会員はこれまでに約五十人(グループ会員を含む)、建設資金は四〇〇万円集まった。引き続き一口一〇万円で会員を募る。」

その後の青海信越山荘は中国側の事情により消滅したとの事でありませぬ。

昨年の七月二十五日高頭祭も無事終わり、翌二十六日、日本山岳協会会長神崎忠男氏と八木原聡明副会長を高頭仁兵衛翁の墓前にご案内する前に藤井先生宅を訪れました。その時は大変喜ばれ、嬉しそうに話をされておられた顔が目につかびます。

藤井先生には良く飲ませて頂きました。県山協会議の帰路の新潟から長岡の間で。新潟へ移られた後、ご自宅の近くの居酒屋で。またご自宅の囲炉裏を囲んで痛飲し、挙句の果て隣室の座敷に布団を敷いて頂いて泊まったり、二階のベッドでも泊まらせて頂いたりも致しました。何時だったかご自宅に寄ったとき、「俺にはもう不要だから」と言われ、山スキー、シール、プラブーツの山スキー一式を頂きました。新品同様で藤井先輩の技術の高さを窺い知るに足るものであります。藤井先生の形見と思ひ、今も愛用いたしております。今思うに所属山岳会が異なるにも拘わらず大変可愛がっていただいたことに、心から感謝いたしております。

二〇一四年二月二十二日「ホテルニューオータニ長岡」に於いて長岡ハイキングクラブ主催の「室賀輝男さん・藤井信さんを偲んで」の会が行われました。室賀・藤井ご両家のご遺族の皆様をはじめ、新潟県山岳協会、日本山岳会越後支部、長岡工業高等学校、山本元帥景仰会、ボーイスカウト、の各界から所縁のある大勢の皆様が参加され、しめやかに行われました。

流水落花、変転定めなき世とは申しながら、在りし日の藤井先生を偲び心からの哀惜を申し上げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

藤井信さんを偲んで

長岡ハイキングクラブ代表 本間 宏之

私は定年数年前に転勤で故郷に帰り、藤井さんと山でお会いできたのは平成二十一年の「高頭祭」と記憶している。その時が最後となった。酸素ボンベの携行を義務づけられた闘病生活で、マイカーで宿泊可能な日程から日帰り、それから新潟近郷の行動と年々と行動範囲が狭まりました。一ヵ月位前まではお元気な声をお聞きすることができましたが、新年を迎え一月十一日、八十三歳の生涯を閉じられました。当クラブを支えてくださった大先輩を再び失うことになりました。

私は、長岡工業高校山岳部で登山第一歩の基礎技術を教わり、当クラブに入会し夏山・冬山合宿、マチガ・一ノ倉沢での岩登り、水無川溪谷での沢登り等に同行しました。また「このルートやあの沢に登りたい。」とお願ひするとクラブの山行計画に立案していただいで、登山技術の指導を受けました。その技能習得は殆んど藤井さんからと言つても過言ではないでしょう。

山行の立案や打合せ会が室賀さん宅で開催されることが度々あり、勤め帰りに藤井さんに立ち寄ると「夕食食べてないだろう。一緒に食べて行こう。」と何回となくご馳走になりました。突然の事で奥様が大変お困りと思ひ、「食べてきました。」と偽って診察室で藤井さんの夕食が終わるのをお待ち

ちしていたこともありました。

このように、優しい心づかいの後輩思いでもあり、心温かい素晴らしい指導者でした。まだもつと一杯教えていただきたかったのに……残念でなりません。私も後継者を育成する立場になった当時を思い出すとその頃の集大成が、藤井信リーダーと土田幸雄サブリーダーの下に同行した「厳冬期の荒沢岳初登頂」に思えてなりません。

藤井さん、数々のご高配とご指導を賜り本当にありがとうございます。これからできる限り引継ぎ、当クラブに寄与していかなければならないと考えます。どうか安らかにご永眠されますようお祈りいたします。

不撓不屈の小野健さんの死を悼む

鶴本 修一

私が二十四歳の時、小野さんの長女つがみさんの学級担任となったことが小野健さんとの初めての出会いでした。その時に梅海新道の開拓と元旦山行の体験や継続を熱く語ってくれたことが、その後の私の生き方に大きな指針を与えてくれることになりました。あの時から三十五年の月日が……。

小野さんは昨年の暮れから体調を崩されからおられ、「僕は今年の元旦山行は無理だから、鶴本先生、気をつけて行ってきてください……」と、気にかけてくださった。

私は三十二回目の越年山行を終えた一月三日、新年の挨拶に小野さん宅に訪問すると、「主人は熱が出て、入院しています。」と奥様が話され、いつものように正月の山談義ができなくて、寂しい思いでした。そして、三月十七日の昼頃、小野さんを慕う仲間から、小野健さん逝去の突然の悲報をもらうことに……。あまりにも突然で……。

私は今まで、小野さんにはいくつものお願いをしてきました。お忙しいのに全てを受け入れてくださいました。私の勤務先の小学五・六年生の道徳授業講師に、いくどとなく小野さんをお招きしました。授業では子どもたちに「不撓不屈の精神」を語ってもらいました。さらに、教職員研修の講師（梅海新道・糸魚川の自然の魅力）も務めていただきました。小野さんは子どもたちにも、新道開削の経験を振り返り、夢を実現するための努力やあきらめないこと、そして仲間が大切であることを情熱を込めて語ってくれました。授業の結びには「自分の好きなことを見つけて挑戦してほしい」「世界や地域社会で活躍し貢献できる人……」と、これから伸び行く子どもたちへ限らないエールを送ってくださいました。

読み物資料による道徳授業が多い中で、小野健先生の授業は、長年にわたる体験からにじみ出る生身の言葉であり、子どもたちや教職員の心にしみ込みました。全国でも稀な、実に貴重な授業となりました。最近では、小野さんの二冊の著書の出

版（二〇一〇年）、そして出版記念パーティー。梅海新道開通四十周年記念祝賀会（二〇一一年）。海のウエスタン祭二十五周年記念祝賀会（二〇一三年）と続き、私にまでその都度ご案内をいただきました。どの会でも常に多くの岳友が集い、小野健さんと仲間との楽しい時間を一緒に過ごし、幸せな思い出となりました。

これからも小野さんからいただいたご教示を心の支えにして、「継続は成果なり」を追い求めて行きたいと思えます。糸魚川の最高峰（ふじ）から見守ってください。小野健先生ありがとうございます。

へいがた山の日制定記念

第二十六回海のウエスタン祭と白鳥山山開き

「山の日」がいよいよ国民祝日に制定されることとなります。山の日は「山を尊び、山に親しみ、登山への関心を高め、美しく豊かな自然を次世代に引継ごう」という理念の実践であります。

新潟県の「山の日」について越後支部では、三年前より全国山岳五団体でつくる「山の日制定協議会」の六月第一日曜の当初案で実施準備を進めてきました。

昨年まで二十五回も開催され、越後支部も後援してきました「海のウエスタン祭と白鳥山山開き」を、主催団体と後援行政当局のご理解とご協力をいただき、今年から

「へいがた山の日」の主行事として実施致すこととなりました。

なお、白鳥山山開きは、この「山の日」実現にご尽力された故小野健・越後支部名誉会員の追悼登山を兼ねますので、多数のご参加をお願いいたします。

記

主催 カタクリクラブ

協賛 へいがた山の日実行委員会

後援 糸魚川市、糸魚川市観光協会、日本山岳会越後支部

日時 平成二十六年六月一日(日) 午前七時

場所 山岳会越後支部

1 親不知コミュニティ広場「ウエスタン像」前

2 白鳥山一二八七m

(山開き兼故小野健氏追悼登山)

行事

1 海のウエスタン祭

(七:〇〇~七:四〇) 小雨決行

(1) 開会挨拶(カタクリクラブ斉藤八朗代表)

(2) 安全登山祈願祭

(3) 来賓祝辞

△糸魚川市長 観光協会長、JAC越後支部長

(4) オカリナ演奏、山の歌合唱、献花他

(5) 閉会(白鳥山登山口の坂田峠へ移動)

2 白鳥山山開き

(八:三〇~一六:〇〇) 悪天候の場合は中止

(1) 行程 坂田峠八:三〇~シキワリ

水場九:四五~頂上一一:三〇(昼食・講演会・自由解散) 一三:三〇~

坂田峠一五:三〇

(2) 頂上講演会「小野健氏を偲ぶ」

へにいがた山の日V実施に至るまで

この経緯については、当支部会報六号・八号掲載の通りです。しかし、その後「山の日」制定議員連盟が今国会中に祝日改正法案を提出し、八月十一日が祝日に制定されることとなります。この経緯も会報「山」八一九号・八二四号・八二七号に既報の通りで、このため六月か八月かで戸惑う支部もありましたが、結局は各県、支部の実情に合った月に山の日を制定することとなりました。

「にいがた山の日」の主行事として、二十五年間も五月開催されてきた海のウエストーン祭が今年から六月第一日曜に実施されるに至りましたのは、この行事主催のカタクリクラブ代表でもある故小野健・支部名誉会員のご理解ご尽力のおかげでありました。日程変更に伴う諸問題を解決されようやく昨年暮、今年の六月実施可能にこぎつけることができました。体調不良の身体でありながら……誠に感謝に堪えません。この実現を見ることなく、去る三月十七日逝去されたことは大変残念でなりません。厚く御礼と哀悼の意を表します。親不知の海辺で開始された海のウエストーン祭が、今年から「にいがた山の日」の主行事として第一歩を踏み出す意義は非常に大きいものがあります。きっと天国から喜んで見守ってくれることでしょう。

余談ですが、ウエストーン像は全国各地にいくつもありますが、全身像はここだけで、製作は燕市在住の著名彫刻家・茂木弘行氏です。

(山崎 幸和)

青田南葉山で豊かな残雪と眺望を楽しむ

「越後スノートレッキング同好会」初山行

「越後スノートレッキング同好会」は、「気のいい仲間が集い、登り、下り、滑ることにより、楽しい交流と人格陶冶に努め、支部の発展に寄与する」ことを目的に本年度設立された同好会です。

四月十九日上越市の青田南葉山(九四九m)で初山行が行われました。参加者は田邊会長他四名、地元「高田ハイキングクラブ」の七名を含めて総勢十二名。まだ1m近い積雪の南葉キャンプ場から、急登の正面尾根をダイレクトに登りきり、穏やかな長い平頂を豊富な残雪を踏みしめて歩きまわりました。

大展望に期待していましたが、天候の回復が遅れ頸城三山は雲のなか、それでも頸城平野や日本海の眺望は素晴らしい。

山頂でゆっくりランチャイムをとり、下山はスキーもツボ足もそれぞれ楽しみながらあつという間にキャンプ場へ。初めての会員同士の交流がこの山行の一番の成果です。



随時会員募集中

「越後スノートレッキング同好会」は、これからも山行を充実させ仲間を増やしていきたいと考えています。興味のある方は連絡ください。随時会員を募集しています。連絡先 田邊 信行(会長)

☎〇二五四(二四)八一八三

フォト、スケッチクラブ会員募集
日本山岳会越後支部ではフォト、スケッチクラブ会員を募集しています。

是非ご加入下さい。

代表 渡辺 欣次(スケッチ)
本間 一人(写真)を担当いたします。会員募集後活動について検討いたします。スケッチ旅行や撮影会、展示会を通じて楽しい会にしてみたいです。

募集期間、随時としますが、一次募集を六月末とします。
連絡先
本間 一人(事務局)

新潟市江南区横越上町二一―一六

電話、FAX 〇二五一三八五―二二二五

メール honna-kazuhito@emobile.ne.jp

【事務局連絡1】

お詫びと連絡

昨年四月の叙勲者として、支部会員の渡辺欣次氏(No.2808)が瑞宝双光章を受賞されておりました。事務局に情報連絡がなかったために、十二月十四日の支部年次

晩餐会や支部報での紹介を忘れておりました。お詫びしますとともに、改めてお祝い申し上げます。なお、支部会員の皆様、このような各種情報がありましたら速やかに連絡いただくとお願いいたします。

【事務局連絡2】

高頭祭に日本山岳会森武昭会長と日本山岳協会神崎忠会長との山岳界二大巨頭が来山

越後支部主催の第五十七回高頭祭は、七月二十五日(金)一四・三〇より弥彦山大平園地の高頭仁兵衛寿像前にて開催されます。今年度は日本山岳会(JAC)の森武昭会長、昨年に引き続き日本山岳協会(JMA)の神崎忠会長と言う山岳界の二大巨頭が来山されることになりました。

高頭祭は、日本山岳会設立発起人で第二代会長を務めた高頭仁兵衛翁の遺徳を偲ぶ越後支部の伝統行事ですので、多数の方のご参加をお待ちしております。なお、高頭祭式典終了後に森会長の記念講演を予定しています。

【事務局連絡3】

平成二十六年全国支部懇談会について
今年度で三十回目となる全国支部懇談会は、埼玉支部担当で次の要領で開催されます。

越後支部からも多数の参加をお願いします。

日時：十月十八日(土) 一二：〇〇受付開始、一四：二五開会式、一八：〇〇交流会

十九日(日) 六:〇〇朝食、七:〇〇登山出発、
一六:〇〇頃解散
会場:ナチュラルファームシテイ農園ホテル
(埼玉県秩父市)

西武池袋線西秩父駅より車で七分(送迎バスあり)
関越自動車道花園ICから皆野寄居バイパス経由で四十分
会費:一六、〇〇〇円

(郵便局での事前支払となります。)
内容:十月十八日 一二:〇〇受付開始、
一四:三〇講演会、一八:〇〇交流会

十九日 登山Aコース:両神山(日本一〇〇名山)
別途三、〇〇〇円必要

登山Bコース:武甲山(日本二〇〇名山)
登山Cコース:秩父の山並みを眺める
低山ハイク

申込期間:五月十二日~六月三十日(期間厳守)

申込方法:個人で直接申し込みするか越後

支部事務局(桐生)に連絡ください。

申込先(問合せ先):

〒三六二一〇〇六四

埼玉県上尾市小敷谷七四七一六

日本山岳会埼玉支部

支部懇談会事務局担当 松本 敏夫

TEL:〇九〇一五三三八一〇一一八

e-mail: toshi-natsumoto@com.home.ne.jp

会費支払先:郵便局備え付け「払込取扱票」
を利用してください。

口座記号・番号 0014017137481

加入者名 公益社団法人日本山岳会埼玉支部

通信欄に支部懇談会会費と記入する。

備考:埼玉支部から送付された支部懇談会

資料等があります。(事務局桐生にて保管)

【事務局連絡4】

越後支部会員の勧誘と加入に協力願います。

越後支部では、昨年度新入会員の加入・
勧誘運動の強化に取り組みましたが、編入
会員二名、新入会員十人と言う新しい仲間
を得ることができました。本年度も同等人
数会員勧誘と加入を強力に進めたいと思っ
ますので、更なる会員増加に支部会員の皆
様のご協力をお願いします。

入会パンフレットと入会申込書は、支部
事務局(桐生)にありますので是非お声か
け下さい。

【事務局連絡5】

支部会員移動連絡

(二〇一三年十二月二十六日~二〇一四年四月三十日)

1) 物故会員

① 藤井 信 (No.4468)

二〇一四年一月逝去

② 小野 健 (No.5704)

二〇一四年三月逝去

③ 橋立 直保 (No.6218)

二〇一四年三月逝去

2) 退会会員

① 風間 満治 (No.4590)

二〇一四年三月

② 桜井 正一 (No.14490)

二〇一四年四月

③ 浅井 計一 (No.8905)

二〇一四年四月

3) 編入会員

東原 進 (No.7514)

〒二五四一〇〇〇二

神奈川県平塚市横内二三五五一五

TEL:〇四六三三五五八八三二

4) 新入会員

① 滝沢 礼子 (No.15441)

〒九四二一〇七四四

五泉市石曾根六〇〇四一

TEL:〇二五〇一五八一三五六二

② 佐久間雅義 (No.15449)

〒九五九一〇〇五五

新発田市諏訪町二二二一

TEL:〇二五四一三三三五六二

5) 入会申込申請中

① 炭田 秀昭

〒九四四一〇〇一三

妙高市高柳二一五一三四

TEL:〇二五五七二二二二六四

② 井口 光利

〒九五四一〇〇三七

見附市椿沢町三二四九一

TEL:〇二五八一六二二二二九五

③ 井口 礼子

〒九五四一〇〇三七

見附市椿沢町三二四九一

TEL:〇二五八一六二二二二九五

④ 菊入 好子

〒九四〇一〇一一五

長岡市村松町二四六七一一

TEL:〇二五八一三三二二九五

⑤ 諏訪 恵一

〒九四〇一〇八二五

長岡市高畑町六一〇一一〇

TEL:〇二五八一三五一四三七三

⑥ 大場 勲

〒九五〇一〇〇五四

新潟市東区秋葉一三六一三

TEL:〇二五二七〇一九四二七

6) 支部会員総数

二〇一四年四月三十日現在

支部員総数二三三名、入会申請中六名

お詫び

九号で峡彩山岳会の狭がまちがっ
ていました、訂正して、お詫びいた
します。

編集後記

ここ一年で幾つもの巨星が流れ星とな
り、残念の極みであります。

多くの追悼文が寄せられ紙面が足りな
く、六ページとなりました、永いお付き合
いのなかで当然であります。新潟日報にも二氏
のの記事が載っていました、いつまでも語り
つがれるものと思います。

合 掌